

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器を、技術スタッフが
厳しい目でチェック! 実用性に焦点を当てて報告します。No.
91

映像モニタ

豊島ケーブルネットワーク(株) 技術部 部長 上山裕史
今回はスタジオにおける映像モニタについて紹介します。

私たちケーブルテレビ局の技術者は、プライマリーIP電話やインターネットなどミッションクリティカルな双方向アプリケーションに加え、コミュニティチャンネル(コミチャ)放送のためのデジタル放送機器の安定動作に目を光らせています。今回はスタジオにおける映像モニタについて紹介します。

映像モニタは大まかに次の3種類に分類出来ます。

(1)写真1に外観を示すように、映像の色・形を忠実に再現することを目的にした測定器に分類される業務用LCDモニタです。例えばカラーバー信号発生器でクロスドットを発生させて表示させると、画面全体に均一な四角形とドットが表示されます。(3)で紹介するものでこのような試験を行うと

不均一が気になるものが出てきます。測定に使える機器ですので高価になります。カラーの色確認などを行うビデオエンジニアには必須のモニタです。

(2)詳細を確認済みの映像を、とりあえず確認するという用途に使用する小型モニタです。外観を写真2に示します。8インチのモニタが2面あり、ラックに取り付けられるようになっています。画面が小さいので、詳細はわからずとも映像が来ていることがわかれば良い用途には十分使えます。

(3)HDMI信号入力を持つテレビやPCモニタで映像確認します。写真3に示すHD-SDI信号とHDMI信号の変換器を使用します。写真3の右側にBNCコネクタのHD-SDI信号を入力し、左側のHDMIコネクタに変換して出力します。写真3に矢印



写真3:SDI-HDMI変換器

を加えて信号の流れを示します。テレビは輪郭を際立たせるといった制御を加えるため、(1)のモニタを標準と考えると、1-2フレーム表示が遅れたり映像の改変があります。ユーザ環境で映像を確認したい場合、このように接続します。PCモニタやテレビは大型でも(1)に比較すると安価です。スタジオで出演者用に利用するモニタには十分な機能を提供します。

コストの関係で(1)の測定器としての業務用モニタを多数用意するのは困難ですが、映像モニタの用途を理解して(2)、(3)を利用すればコスト削減に役立つことと思います。

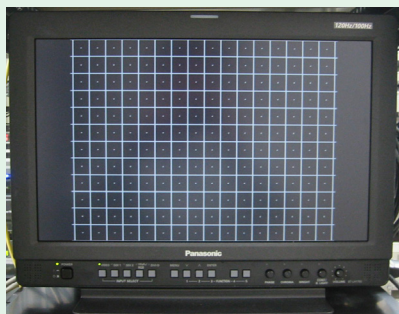


写真1:測定器としてのモニタ



写真2:8インチ2面モニタ